

吻の先端が網に絡んで痛々しかったのですが、これほどの大物が浦戸湾に入ってくるとは驚きです。

ナルトビエイはマダラトビエイ属の種ですが、同属のマダラトビエイと違って体盤に青みがかった白色班がありま



1ページと同一個体。

せん。ナルトビエイは、県下では、トビエイ属のトビエイよりも希な魚です。マダラトビエイ属は吻が突出しますが、トビエイ属は突出しません。また、マダラトビエイ属では噴水孔が背面から見えますが、トビエイ属では見えません。背鰭が腹鰭の上にあるのもマダラトビエイ属の特徴です。

これらの仲間は海底の小魚や貝などを餌とします。ナルトビエイはアサリの天敵とされ、瀬戸内海などでは大きな被害があるとされています。しかし、アサリという自然の餌があるからこそ彼らも生きていけるのです。一方的に害魚と決めつけるのはいかがなものでしょうか？

2005年4月6日発行 発行者：町田吉彦（理学博士，高知大学理学部教授，
四国自然史科学研究センターセンター長）

本書の内容の無断複製を禁止します。複製ならびに内容についての問い合わせは FAX 088-844-8310（町田研究室直通）でお願いします。